

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
浜松市根洗学園		令和 8年 3月 25日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	21	16	部屋が広いので、机で区切る等して空間を分けている。面談室などフリーで使える部屋が明確にあると良い。食料費節約のため業者を選択している。できるだけ物を置かないようにしているが、結果、廊下物があふれてしまう。子どものみの場合には十分であるが親子療育となると狭さを感じる。子供連の様子に合わせて、部屋の机などの配置を設定している。もう少しスペースが広かったり、広く見える作りだと余裕が生まれるかも。子どもの年齢、人数に対して部屋数や広さが適していない。静、動の遊びのスペースを区切っている。部屋の大きさと子ども、保護者の人数と合っていないが時間帯によっては広い会場で支援を行えている。ただ部屋の移動等があるので、なるべく同じ場所でやり続けたい。体調不良の子が出た場合の個室がほしい。人数に対してスペースが狭く感じるため、怪我のないよう安全面に留意し職員配置を心がけています。スキップや父親参観等の行事で、保護者も参加する時に狭いと感じることがあります。部屋がもっと広いといかないかと思うのと、部屋数が増えればいいのと思います。子どもが崩れてしまったときに、龍もれるような部屋が複数あるとよい。定員との関係では適切だと思うが、ひとクラスの園児数が増えることで職員数も増え教室の狭さを感じる。雨天時などは共有スペースを調整して使用している。雨天の時に教室とは別でござせる部屋が少ない。定員に対して部屋数が少ないため、人数を減らして使用するなど工夫している。利用者に対して部屋の人数や、おもちゃや教材をしまうスペースが少ない。子どもの人数に対して部屋のスペースが狭い。室内であそびのゾーンを分けるなどしてできるだけ人数を分散できるようにしている。移動棚を使い部屋の中の広さを確保したり、空間を区切りたりしている。移動棚を使い部屋の中の広さを確保したり、空間を区切りたりしている。狭い。親子での参加のため狭く感じる。椅子の配置等工夫をしている。絵本棚の位置や物を棚にしまったりしている。	利用定員とスペースの関係については、施設構造上、親子療育や行事等で保護者が参加する場合には十分とは言えない状況がありますが、個別対応や落ち着ける場所の確保については今後の課題でもあります。引き続き職員間で環境設定の工夫を重ねるとともに、必要な改修等については浜松市への要望として伝え、協議していきます。また、施設をより広く活用できるよう環境整備を進め、不備の早期発見と対応を意識しながら、利用者が安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	22	15	調整が必要な日もある。時間帯の変更等の工夫をしている。活動内容によって、補助をお願いしている。見守りはできても療育はできていないと感じ、申し訳ないと思うときが今年度は多い。職員一人に対し子ども四人といわれるが、人数ではなく現場の声を尊重してほしい。また、職員二人でまわす状況はなくなつてほしいと切に思います。理由は、何かあったとき(例えば失敗)一人抜けると残った子どもを一人で見なければいけない状況ができ、また、抜ける職員もそうならないよう「何人か一緒に連れて行かなければ」と無理をしてしまう。そのような状況では、職員も子どもも落ち悩まず、ケガなどリスクに繋がるのではと心配。事が起こってから後悔しても、元に戻せない事があります。経営のことは分からないが、職員の人数が揃わないのであれば、受け入れの人数を見直す必要があるのではと思う。職員がそばについて伝えることだけでなく、視覚的支援を活用して子ども達が自分で気づいて行動ができるよう工夫している。しかし、場面(排泄の対応や個別支援)によっては1人でクラス全体を見なくてはいけないことがある。最低限に必要な活動や場面で応援を依頼をしている。体制は取れているが、余裕がない。緊急時に人手が足らず困る。こどもの状態が大変なクラスで職員が不足している時がある。人数が多い時には事務作業などをしてもらうなど、それぞれの状況に合わせて対応するようにしている。職員の体制が取れていない時がある。母子分離の際のスタッフが足りない時があります。毎朝、体制確認をしている。日によって、もしくは子どもの状態によっては、もっと人員がいればよいのにと思うことがある。人数に対してクリアしていると思うが、日によっては大変な時もあるのでグループで1人は常にフリーでいて動ける状況だといひ、クラスにより差があるようにも感じる。必要に応じた配置ができていかなど把握していく必要がある。普段は大丈夫だが、職員の研修や病欠、事務仕事を考えると少し余裕がほしい。状況によって もう一人職員がいるといいなと思う時があります。足りないと感じる時がある。日タシフト表で利用児数と職員数の確認をしている。毎日、ギリギリの体制なので、もう少し余裕があると良いと思う。職員配置に関しては、お子さんの発達段階により、手厚くするなどの工夫やみなでの共通理解は必要かなと思います。わかりません。職員数足りない。足りないと感じる時がある。グループ内で休みの子がいるクラスと調整をしている。	職員体制的には国基準より加配した体制になっています。個別対応や排泄対応などが重なる場面では職員体制に余裕がないと感じることがあります。こどもの特性やクラス状況に応じた柔軟な職員配置や応援体制の整備、業務の効率化を図りながら安全で安定した支援体制を整えていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	26	11	トイレはバリアフリー化されると良いと思う。車椅子で園内を移動する事を考えると、段差が多く不便。使用する年齢にあった設備になると、使いやすく、生活の流れを組み立てやすい。一日の予定や場所を絵カードで伝わり易くなっている。北棟トイレが2オ/きい/らいおん/学童と体格が異なる子供が使用している。足がとどかなかたり人数の関係で、男の子が女子トイレを使用することがある。絵カードや机の配置等工夫をしている。しかし、子どもに対してあっていない手洗い場等もあり、自分たちではやりにくいこともある。担当の先生方が工夫されているのが分かる。部屋ごとに看板があり、子どもにはわかりやすい。平家なため、階段は無いが、段差が多いのは気になる。大雨の日に園内散歩を外を運りぬれてしまうことがある。トイレ前の廊下で着替えを行うなど、配慮が必要なのと空間ひとつとつが狭い。廊下に荷物(職員室側)が多く、いざ避難などする際心配になる。施設が古いため、サッシの段差などつまづきやすいです。やれる範囲で段差にスロープを作ったりしているが、最善ではないと思う。手作りスロープなどを設置しているが、まだまだだと思います。場所によっては入り口が狭かったり段差もある。建物がつながっていないので雨の日はぬれてしまう。構造上バリアフリーは難しい。段差は斜面を造作して軽減している。子供達の動線や目線を考えて物の配置に努めている。できる範囲では配慮している。トイレや玄関は、バリアフリー化されていないと思う。段差はとても気になる。わかりません。トイレが狭い、段差あり。	施設の老朽化や構造上、段差や設備面で十分なバリアフリー化が難しい部分があります。安全面に配慮しながら手作りスロープなどの対応を行っていますが、引き続き改善が必要です。今後も安全対策を行うとともに、設備改善について検討していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	28	9	年齢、人数に対し部屋が広すぎるので、静と動の区別がつけられるよう家具の配置を考えている。環境整備でエアコンや加湿器の清掃をすることでやり忘れがない。カーテンも定期的に洗うようにしている。狭い部屋に子どもが多いこともあり、換気や消毒を行っていても下痢や風邪症状など一人感染するとほとんどの子に同じような症状が出てしまう。全体的に古さはあるが、職員の方々が掃除をしてくれている。トイレへの抵抗感がある子にとって年齢にあった明るい環境を整えられると良い。職員で清潔な環境を保っていると思う。建物は古いが、清掃は各自行えている。トイレの雰囲気や怖がる子どもが多く、改善できると良い。拭き掃除などをこまめに行っているが、建物の老朽化のためかアリやネズミなどを常に駆除しなければいけない。掃除等で補っているが建物自体が古いのでやりきれない所もある。掃除は頑張っていますが、トイレなど古さ臭いから敬遠する方もいます。設備は古いが掃除をして清潔に保つよう心がけている。食後は毎日、子どもたちと雑巾がけをし清潔に過ごせるようにしています。清掃はしているが、子どもにとってはトイレが暗く怖い印象があると思う。毎日の掃除、点検を行い、各クラスのごとく連に合わせた環境設定を工夫している。トイレの改装がされ、使いやすくなったがまだニオイが気になる。できる範囲でできている。日々の清掃と毎月環境整備を行っている。全部屋に床暖房があったり、毎日清掃をしりしているため、古いながらも清潔だと思う。少しずつ改善しているところもあると思います。おもちゃなどが廊下の棚に出ていると、子ども達の注意が散れてしまう。療育中は丁寧に片付けている時間が取れないため、療育後におもちゃなどを片付けている。毎朝朝と夕方に清掃している。朝、必ず掃除、設備点検をしている。	日々の清掃や環境整備により清潔な環境維持に努めています。施設の老朽化に伴う衛生面の課題(トイレ環境や害虫等)が見られることがあります。引き続き清掃や衛生管理を徹底するとともに、必要な環境改善を検討していきます。清潔さ・心地よさの視点を常に持って、環境へのチェックと対応をこまめに迅速に行っていきます。

業務改善	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	27		部屋が増えるなどよい。個々の様子に合わせ、職員の体制が不十分にならないように考慮して、個別の活動をしている。余っている部屋がなくできない。廊下を利用するが全く集中できない。また、部屋を飛び出したりトイレの個室にこもりたがる子どもいて、そういった時に個別の部屋や場所があったら良いと思う時がある。部屋数が少ないため、個別対応となると廊下や外でクールダウンになってしまう。体調不良の子どものいた時の場所がない。あるけど、確保するのにバタバタしてしまうので、余裕はなさそう。部屋数がなく、クールダウンするような部屋がない。体調不良時にも部屋を探すところから始まる。空き部屋は通常はないため、クールダウンは廊下を使うことごと多い。なっているが、実際に過ごせる場所は少ない。雨の日等、子ども達が過ごせる場所が教室以外ほとんどない。落ち着かない場合は廊下や外でクールダウンしていますが、道具や車が視界に入ってしまう逆効果になる場合もあります。天候や状況によって用意が難しい時があるように思う。個別の部屋や場所を使用することは、現在空いている部屋がなくて難しい状態です。部屋数が少ないと思います。職員の休憩室や和室を利用しているので、療育のための部屋が必要だと思う。認められるが、個室など空き部屋がない現状もある。体調を崩した子供が利用できる空間を確保するのが大変。部屋数不足。体調不良になったお子さん等が、保護者のお迎えまでの待っている間に過ごせる部屋があまりないと思う。余っている部屋がないので吸音BOXでクールダウンする等、工夫している。個別訓練や遊べる環境としては、物が多かったりその他に気になるものがあったりして、お子さんによっては集中力が途切れる要因となることがあります。耐震等の心配もあります。わかりません。クラスとの声を掛け合い調整をしている。お部屋が空いていなくても廊下行ったり仕切りたりすることで個別の空間を作れるようにしている。	子どもが落ち着ける部屋、個別に使用できる部屋の不足は現状として認識しています。各部屋でのコーナーを区切るなど、工夫することでの対応の継続等、子どもが落ち着いて過ごせる環境づくりを引き続き検討し、限られたスペースの中での活用方法を工夫していきます。引き続き職員の感じている意見を自由に発言できる場も大事にし、学園全体の環境を具体的に考えて皆で工夫していきます。
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	33	3	1日の最初と最後だけでなく、療育中に気になった事はその都度話して、情報共有をしている。降園時間後、必ず振り返りを行っている。その他、グループ会議や面談前後に対象児について話し合う時間が設けられる。振り返りができる環境がとれない場合がある。その日ではいいいっばい計画を立ててもなかなかそれ通りに行かない。保護者や他事業所、園などでイレギュラーな仕事も多い。衛生委員会などが機能している。毎回振り返りを行い、支援の確認等を行っている。クラス、学園全体とともに時間を設けている。分からない。打ち合わせ、振り返りは丁寧にやっている。	日々の振り返りや会議を通して支援の改善を行っています。業務状況によっては十分な時間を確保することが難しい現状もあります。事前の情報共有等を通じ、短時間でも効果的に振り返りができる仕組みづくりを進めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	36	1	療育の方向性等、詳しく聞くようにしている。ご意見をまとめ一人ずつ配布してくれるので、ゆっくり読むことができ、意識することができる。指摘を受けた点は意識して行動している。市からの委託事業で利用終了時にアンケートは配っている。解答を直接見る事はできない。職員間で共有し、管理職からの指導がある。分からない。毎月の職員会議で周知している。終了アンケートのフィードバックを受けている。アンケートなどを進めてできていると思う。	保護者向け評価表やアンケートを通して、保護者の意向や思いを把握する機会を設けています。いただいたご意見については職員会議等で共有し、必要に応じて検討を行いながら支援や運営の見直しにつなげています。また、保護者の声をきっかけに職員同士で日々の支援を振り返る大切な機会にもなっています。今後も保護者の声を大切に受け止めながら、支援の質の向上につなげていけるよう取り組んでいきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	32	3	職員会議にて、業務改善についてじっくり話す場面を作れると良い。スキルアップのための研修等に参加。毎日気になった事は必ず伝える様にしている。このアンケートや面談が該当すると考えます。アンケートなどで名前を明記はしなくてもよいと思います。振り返りや打ち合わせ、会議等、日頃のコミュニケーションの中でも行っている。意見は言えるがバックはない。活動時に毎回話し合いを行い、それぞれの思いなどを話し合っている。日々気づいた時に話し合っています。管理で話し合いを働けるが対応しなければいけない課題が多く回り切らない。また全てが改善策ではないため、職員と話し合うことも必要と考えている。アンケートで意見できる場があり、伝えやすくしている。面談を行なっている。毎月のアンケートで意見が言えるようになっていく。人により異なる部分があると感じます。わかりません。カンファレンスで意見交換をしている。	各グループ・部門等の会議は実施されていますが、各部門の意見を丁寧に集約し、組織として対応できる仕組みの構築として、次年度は各グループにリーダー職を設けていきます。また、業務量の関係ですべてを改善につなげることが難しい場合があるのも現状です。課題を整理しながら優先順位をつけて改善を進めていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	32	3	クラス職員以外と話す機会を増やす。監査があり、指摘や提案された内容を聞く機会があった。できそうな事は実践していきたいぬと話してはいた。実際に見てもらう機会は少ない。他の事業所がどんなふうに行っているのかわからない。第三者委員会、市の各調査を行い改善している。分からない。第三者委員会を実施している。	第三者委員会や監査を通じて外部からの助言を受けています。職員全体の理解と周知を徹底していきます。職員一人一人の思いも確認しながら、業務改善につなげていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	36	0	階級別研修もあり、経験に合わせて学びを深めていける所が良い。職員皆が参加する機会が必要。勤務時間の都合でなかなか外には行かれず、法人内のみではあるが、なるべく参加するようにしている。参加できなくても興味があれば資料をもらったり、記録を見ることができると良いと思う。研修報告では参加した職員の話聞くことができ、学びの共有ができていく。業務がたて込んでいいる時は落ち着いた気持ちで研修にのめり込める時がある。いろんな研修があって参考になります。法人研修を受けている。いける範囲のものには参加している。研修の機会が定期的にある。お迎え時間と重なり出席できないことが多いので、録画などで見ると嬉しいです。研修は命令する形であり、個人の受けたいものへの参加が業務内では難しい。自主研修の機会を学園内で、行うことと参加しやすくしている。分からない。定期的に研修を行っている。他施設より研修の機会は多いと感じる。研修が受けられる体制が取れる。	研修機会は確保されていますが、業務の状況の兼ね合いの中で、現状の研修内容を再度検討・評価していきます。また、研修内容の共有方法（資料・報告等）を工夫し、職員全体の資質向上につなげていきます。職員が学びたいことから研修計画を立てていきたいです。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	37	0	支援プログラムを都度確認する。行動の記録の書き方が変わり支援目標が分かり易くなった。大変だとは思いますが、月まとめて一か月の成長や様子を担当が振り返ることができるとシステムは良いと思う。職員同士で相談しながら作成をしている。見る機会が少ない。面談の中で保護者と確認ができている。個別支援計画は作成されていないが、初回時に目標を決めて支援している。いいところは残し、年々改良されています。見直し、改善ができていない。分からない。クラス、グループ間で検討して作成したものとなっている。	支援プログラムは作成されています。全職員が十分に理解し実践できるよう、共有や見直しを継続して行っています。また、定期での見直しも行います。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	36	0	計画の作成はしていません。面談時に保護者の方と確認している。成長によっては都度変更しても良いように感じる。児発管の先生方が丁寧にアセスメントを行ってくれている。細かく作成されていると思う。面談で児発管が丁寧に確認されている。面談等を行い、保護者のニーズに合ったものを考えられるようにしている。努力していますが、目立ちにくいお子さんもしっかり支援できるように気をつけたいです。面談等でニーズの確認をしている。保護者からの意見を取り入れ、ニーズに合ったものを作成している。わかりません。カンファレンスにて担当者同士で意見交換をしている。面談後に再度児発管と話し合いをし計画を立てられていると思う。	児童発達支援管理責任者を中心に作成していますが、子どもをまんまかにとらえ作成していますが、今後より子どもの声を聞き個別支援計画に反映させていくことが必要であるように感じています。子どもの育ちにに応じた見直しや、職員間の理解の共有を引き続き進めていきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	37	0	担当者会議を実施している。自分が感じた事は必ず伝える。面談前に対象児について話し合う時間を設けている。それ以外でも、打ち合わせや振り返りの時間を利用して意見を聞かれる時がある。計画の検討、意見交換として話す場が設けられている。丁寧に聞かれていると思う。面談後に児発管と担任ですり合わせをしている。保護者の求めるニーズ、子どもの見立てや課題等を話し合うことが多い。日々の振り返りで、共有しています。児発管が作成することで、内容の幅が広がったのではないかと感じる。分からない。数人で計画案についての会議を行い、いろいろな目で見え検討している。面談後に話し合いをし計画を立てられていると思う。	担当者会議を実施し、チームで支援にあたる視点を大事に取り組んでいます。日々実施されている事を、俯瞰的な視点と、“その子どもにとってどうか”という視点を、より多くの職員で共有できる仕組みづくりを検討していきます。
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	34	2	日々の行動の記録にも計画を明記し、意識できるようにしている。支援に違いが出ないよう、方向性を確認する。面談後に報告会を行ったり、毎日記入する行動の記録にも目標が記載されている。日々の記録に記載されているため、支援につながりやすい。行動の記録にも計画内容に沿って記録するようになり、より意識ができていく。普段は職員室に保管されており、意識的にこまめに確認する必要がある。振り返りの中で次回のアプローチの仕方など見直しを行なっている。親子教室なので発達支援計画の作成はしていないです。計画には保護者の意見が反映されるため、言語、コミュニケーション、認知、社会性などが中心になりやすい。なぜその現れがでているのかを見立てそこにいくための基本的な生活や身体づくりまで見ていけると良い。各児の行動の記録に、課題を明記し、その点に注視できるようにしている。分からない。毎日記入する記録に支援計画が載っているため、意識しやすい。自分のケースの計画は確認できているが同じグループの子の計画を把握できていないところがあるため、お互いに計画に目を通す時間を作られたりよかつた。	行動の記録に支援目標を記載するなど共有の工夫を行っています。その中で職員によって確認の機会に差があるという課題が見られました。計画内容をより意識した支援が行えるよう、職員間で確認し合う機会を増やしていきます。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	32	3	日々の変化を見逃さないようにする。参加者全員の行動の記録がある為、そこに記入。共通のアセスメントツールを使うときの評価のとり方は個々の差がでてしまうため、研修など必要。各児の行動の記録に、課題を明記し、確認しやすくしている。分らない。園で作成したものがあるが、医療受診している場合は、発達検査等フォーマルなアセスメントも保護者から提供してもらっている。カンファレンスで担当者で意見交換している。	日々の行動観察や記録を中心に子どもの状況を把握しています。評価方法やツールの活用しながら、子供の育ちをとらえていく事にも職員一同で取り組みます。実践を通し、児発達の指導助言や、スーパーバイズなどの共通理解を深めるための研修や情報共有を進めていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	35	1	細かい支援内容を確認し、把握するようにしている。項目があることで、相談される側としては考え易い。併付通園や転園の希望などについて、家族の希望を丁寧にききとっている。必要に応じて保護者の許可を得て利用している園との連携、こちら側の見立てや実際に行っていることを伝えている。サートに担当者が会議で確認している。分からない。5領域を意識している。	児童発達支援ガイドラインの内容を踏まえた支援を行っていますが、家族支援や地域連携なども含め、こどもの生活全体を見通した支援の整理と共有を引き続き行っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	33	3	クラスの状況をよく話し合うようにしている。チームで行おうとしていると思うが、打ち合わせや話し合い、準備が不十分だと感じることが多い。活動ごとに療育プログラムを立案している。すべての子どもが参加できるポイントがあるか意識をする。作り上げたあとに全体で確認し、その場で出た声などを聞き必要に応じて流れなどを変えている。職員間で相談しながら作成している。スタッフ同士のコミュニケーションは沢山とって話しやすい環境です。様々な活動のプログラムを各担当を決めてチームとして行っています。プログラムを作るにあたり職員間で、活動内容、支援方法はなしている。分からない。声を掛け合いながら、1人で作成せず、様々な意見を取り入れている。担当が考えて実施するという一方通行になってしまうことがあるため、やり方などグループの職員に聞きながら立案している。担当がいるがお互いに意見を出していると思う。	活動プログラムはチームで検討しています。準備や打ち合わせの時間が十分に取れない現状もあります。業務内容も見直ししながら、ガイドラインの理解を深めるための研修と、具体的な自己点検とそこから生まれる改善点を次の実践に活かせる仕組みづくりに取り組みます。引き続き職員同士の意見交換を大切にしながら、こどもの育ちに合わせた活動の設定を進めていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	35	0	子どもの育ちや季節などに合わせて、活動を調整している。日々の子どもの様子から、内容を考えている。活動は、季節や子供たちの成長に合わせて考えてくれているため固定化はしていないと思う。しかし、自由遊びは子供たちの希望が強いこともあるのかミカ率が高くなっている。子どもたちの様子に合わせて固定化して流れをつかったりイレギュラーな活動を取り入れ、アセスメントをしている。月案を見比べて固定化しないようにしている。子どもの発達課題を悩んで話し合いながら内容を変えている。季節感や職員間でやってみたり取り入れている。年々変えています。クラスの状況を見て立っていると思うが、縦のつながり（前後）を見ていくことが必要。クラスの子が去年何をしていたのかを知ることが必要。ステップアップした活動、連続性がでるとより良い。季節感を取り入れている。分からない。固定化しないよう、他職員の意見を聞くようにしている。カンファレンスに担当者で意見交換している。各担当が立案したあと再度クラス職員がクラスの子に合わせてプログラムを変更することで個々の子供に合わせたプログラムになっていると思う。	季節や子どもの発達に合わせて活動内容を工夫しています。また、プログラム後の振り返りも丁寧に行われています。こどもひとり一人にとってどうなのかの視点をもって、こどもの観察・発達の状況、特性を加味し、多様な活動プログラムを意識した、繋がりのあるプログラムづくりや支援を行っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	33	3	集団の中で個別を見るような形が多いと感じる。児の様子とクラス全体のようすを考慮している。支援計画が変わったことで明確化されたように思う。造形などは個別で支援をしている。個別での取り組みはこれから支援の中で行えたらと思うが、計画ではない。分からない。体制を整えることが難しいが、からだあそびは毎月行っている。アートでは子どもの様子をみて個別で抜き出して行っている。からだあそびもグループ分けして見ることができている。アートでは発達に合わせたグループ分けはまだできない。	現在は集団活動を中心とした支援が多いです。個と集団の両方の発達や力の発揮のバランスを捉えながら活動できる環境の調整が今後さらに求められています。活動内容やグループ分けなどを工夫しながら、個々の子どもに応じた支援を行っていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	35	1	一日の流れがスムーズにいくよう、細かく打ち合わせをする。簡単な打ち合わせではあるが行っている。しかし、朝の整えや準備もあるため、何かしながらになってしまうことが多い。後期になり、チーム連携が増えてきたように思う。朝の打ち合わせができない事、振り返りが出来ない事が重なる時がある。職員の動きを具体的に話し合う。毎朝確認し、前回の振り返りから気をつけることや保護者のサポートの仕方なども確認している。活動に対してどのような流れで行うかポイントを確認している。教室の開始時間が早いため、なるべく手早くできるように工夫しています。職員が朝開く、打ち合わせが十分でない日がある。分からない。丁寧に共有する時間を取っている。打ち合わせはするが、不十分となることもあるため、改善が必要であると感じています。前回の振り返りでの課題を確認し、共有している。打ち合わせを必ず行うことで連携できている。	支援前に打ち合わせを行っています。しかし、準備や環境整備と並行して行うこともある為、業務を調整しつつ効果的に情報共有ができる方法を検討していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	35	1	お互いに気付いたことを共有できるよう、短い時間でも必ず話し合っている。共有は大切という思いから話しが長くなってしまい、手短かに終えたいと思っている職員には負担になってしまっているかも。・・・毎回必ず行い、次の支援について個別で考える。翌日または次回どのような働きかけをするかを確認している。日々行っています。どうしても目立つお子さんに意識が向きがちですが、目立たないお子さんも意識を向けたい。日々振り返りを行います次回に繋げていると思う。記録に残すことで、誰もが共有できるようにしている。毎日、療育終了後振り返りを行なっている。次に活かすことなど、話し合っている。職員体制により1人となり、十分に振り返りができない日もありました。そのため次の日になることもありましたが、毎日振り返りを行い、次の日に活かせるようにしている。わかりません。	クラスで活動の振り返り、職員全体で行事や業務の振り返りを、会議などで時間を設けながら実施しています。記録を残し、共有方法を工夫しながら、振り返りの質を高めています。今後もより具体的な改善や、職員の気づきや支援方法の共有できるよう取り組みます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	36	0	次に繋がるよう、方向性を話し合っている。大変だが必要なことだと思っている。引き続き頑張ります。ふりかえって見返すことが少ないため改善をしたい。記録だけでなく、振り返りの中で実践したこと、その結果などを共有している。行動の記録を書きながら職員間で話している。なるべく簡潔に記録を取るようにしています。必ず毎日、その日の様子を記録に残している。わかりません。定型化された記録、自由記録の記入で確認している。	日々の記録を残すことを丁寧に取り組んでいます。書式を工夫し、ポイントを整理しやすくしたり、今後の方向性を明確に記しています。引き続き職員間で共有し、支援の検証に活かしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	32	3	半期に一回は全員行っている。成長を見逃さないようにする。園内のモニタリングは分からないが、外部から見えた場合はモニタリング前後に話している。親子教室ではしていない。振り返りその都度見直されていることもあるが、全体的には前期後期の2回。分からない。保護者と面談する機会を大切にしている。	少なくとも半期に1度は定期的にモニタリングを行っています。こどもの成長や状況の変化に応じて柔軟に見直しを行うことも必要です。保護者との面談や日々の様子を踏まえながら支援の見直しを行っています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	36	0	会議には参画していません。ケース担当が事前に部屋職員に、対象児の現状について聞き取り確認がある。担任だけでなく、児発の職員も参加しているため、情報の共有や支援の検討がされている。限られた時間の中で、連携をとっている。わかりません。	サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者や担当職員が参加し、情報の共有に努めています。今後は会議内容を職員間で共有する機会を増やし、支援に活かしていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	34	2	必要に応じ、積極的に関係機関との連携をはかっている。こまめに話し合いの場を設けていると思います。必要に応じて担当が行っている。大変だと思う大切なことだと思うので今まで丁寧に連携を続けてほしい。医療的ケアを行うにあたり、主治医との面談を行った。保健師、地域圏との共有、連携は大切にしている。主治医との連携を考えていきたい。分からない。必要に応じて密に連携をとっている。問題、経過を連携している。	医療・保健・教育機関等との連携は必要に応じて丁寧に行っています。多様な機関との連携は、職員一人一人が、学園以外の視点に触れ、こどもの理解や支援を考える視野が広がる一方で、他機関の多様な意見・考えにチームでの対応が必須となり、結果的に職員の業務が増えていることが今後の課題としてあります。今後もチーム根拠学園として取り組みつつ、関係機関連携の対応についてもマニュアル化等誰でも安心してできる方法の模索が必要です。

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	33	1	電話連絡だけでなく、園に訪問して直接情報の共有をはかる事も大切にしている。直接関わってはいません。心配が大きい児でも、園が受け入れOKなら送り出そうとする姿勢が増えたように思う。ただ、幼稚園などが受け入れ後やはり大変となった時に、保護者への説明等をねらいでするのは疑問に思う。ねらい以外から言われることでの気づきも大切だと思う。移行支援にともない、連絡を取りあっている。園との連携などは書面や電話等で親子教室は行っている。子どもが今できていること、今後の課題や今働きかけていること等を共有している。移行支援を行なっているが、職員が地域へ出る機会が少ないため、聞いた情報のみ。職員が地域へ出る体制づくりをし、知識を広げることでより、こどもの見立て方がかわり、保護者と話ができるのではないかと、お互いに電話で、児の様子など確認している。その子が生活しやすい環境を整えるために、みんなで考え、情報共有をしている。わかりません。問題、経過を保護者に確認の元、共有している。情報共有をしても相手側から理解を得られない場合もあると感じている。連絡をこまめにとった方が関係を築けるができない時もある。	保育所や幼稚園等との情報共有は丁寧に行っています。インクルージョンの視点が地域園にも根付き始めている一方で、過渡期という印象もあり、学園が保護者と地域園の間に入り架け橋となることが多くなってきました。今後も訪問や情報交換の機会を活用しながら、相互理解を深めていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	34	1	直接関わってはいません。学校の先生が来園して担当と話しや子どもの様子を実際に見てもらえているのは、末端職員がありがたいと感じている。親子教室のため就学の移行はありません。幼児同様に学校に対する理解も職員間でアップデートしていくことが必要と感じる。かけはしシートの作成。サポートかけはしシートを使用し、引き継ぎを丁寧に行っている。わかりません。	就学に向けて学校との情報共有(かけはしシート等)は行っていますが、現在の学校教育への理解をさらに深めることが課題です。今後も丁寧な引き継ぎを行い、こどもが安心して就学できるよう支援していきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	30	5	直接関わってはいません。ベストスタッフでも見学できる機会があるのなら行ってみたい。研修で関わる事業所もあるが、あまり関わりはない。電話などで状況把握など行なっている。連絡会などで、ケースの共有をしたり事例検討会をしたりし、支援の質を向上するための会を実施している。わかりません。	地域の児童発達支援事業所との連携は会議や連絡会を通して行っています。今年度は児発連絡会や外部研修に現場職員に参加してもらえよう調整しました。しかしまだ、現場職員が関わる機会は少ない為、多くの職員が参加できるような業務に組み込むなど計画的に取り組んでいきたい。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	33	2	研修の内容に応じて、積極的に外部研修にも参加している。直接関わってはいません。研修の内容を報告してくれ、内容が朝終礼簿に記載されるため(簡単ではあるかもしれないが)情報が共有され良いと思う。いける機会は少ないが行きたいとは考えている。年間で多くの研修を受ける機会を設けている。わかりません。	外部研修や園内の専門職から学んだり助言を受ける機会があります。参加できる職員が限られる場合がある為、朝礼・終礼や職員会議を活用し。研修内容の周知を行います。引き続き、職員間で共有し、日々の支援に活かしていきます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	27	7	時間の都合上参加していません。私はしていないが管理職の方々が行なっている。定期的に参加している。参加は管理部門が多いが、必ず参加している。わかりません。	組織としては、中区や北区のエリアの自立支援連絡会や市のこども部会等にコメンターとして管理職員が参加しています。今後は会議内容を職員間で共有し、地域の支援状況について理解を深めていきます。
	31	(31は、事業所のみ回答)	25	9	直接関わってはいません。会議は行なっているが、今後現場研修ができると良い。電話でのやりとり等、必要に応じて行っている。わかりません。	児童発達支援センターは、中核機能として、各事業所等へのスーパーバイズやコンサルテーションの機能が求められています。また、人材育成にも重点を置き取り組んでいきたいです。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	33	3	未就園児との関わりを月1回設けています。三方原とは行ったり来たりして一緒に遊ぶ機会があるが、聖隷こども園わかばとは雇われてもらって受け取るだけになっている。こちらからおおななどできた素敵だと思ふ。散歩でわかばの前を通った時に「こんにちは」と声をかけるような交流も良いかと思う。近隣の園と交流する機会がある。三方原幼稚園との交流を行っている。親子教室のためありません。相互に交流を行なっている。交流園を増やして行けると良い。地域園との交流をしている。もっと増えていくとよいと考えます。	三方原幼稚園やこども園わかばとの交流を行いました。しかし、機会が限られているという意見もありました。今後も多様な形で交流ができるよう、交流園や交流方法を検討していきます。引き続き、地域との関係づくりを大切にし、地域に開いた根拠学園でありたいです。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	36	0	その日のエピソードを必ず伝え、保護者からも話が引き出せるようにしている。生活記録だけでなく、ちょっとしたことでTELや面談をしていて、時間がない中でも丁寧に聞こうとしている姿が素晴らしいと思います。また、その内容をすぐにパートにも周知してくだるため、支援するときや保護者の方と話しをする際に戸惑わずできます。親子療育や送迎時、電話やおたより帳等様々な方法で支援をしている。こどもの送迎時や親子療育の時などに成長点などを伝えている。面談以外にも教室参加時にそれぞれと話をしお互いの意見を共有している。なるべく声かけています。毎日の生活記録や、おたより帳などでやりとりをしている。わかりません。活動の中で、保護者への声掛けを漏れないような主担当を決めている。必要に応じて電話連絡をしている。	送迎時や面談、電話連絡、生活記録表などを通して保護者との情報共有を丁寧に行っています。お話ができる機会を大切にもらえ、家庭での表れや、心配事など家庭支援も引き続き大切にしています。職員によって関わり方に差が出ないよう、研修や職員間の日々のコミュニケーションも大切にし、家族支援への支援の充実を図っていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	34	1	お話し会やわくわくサロンなどにて、情報を提供する場をもうけている。直接関わってはいません。親子/2歳/虹/らいおんと、いろいろなタイミングで受けられるようなシステムになっている。研修などの情報があれば流している。親子教室ではペアプロを行っている。ペアレントプログラムや保護者の交流会など行っています。年々、お父さんや夫婦での参加も増えています。親子療育を行なっている。スナップでのお話会、地域や育成会のお話会など、情報提供を行っている。わかりません。家族が参加できる研修を行なっているかはわからない。	ペアレントプログラムや保護者のお話会(スナップ・父親参観会、わくわくサロン)等を計画的に実施しています。保護者が本音を語れたり、仲間と共に学び育ちあっている、参加方法や内容に引き続き検討していきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	35	0	直接関わってはいません。説明などする機会を設けて伝えている。入園時、進級時等に説明している。わかりません	入園時や面談等で説明を行っています。保護者が理解しやすい説明方法について引き続き工夫していきます。また、適時職員全体で現状の確認・検討をする中で内容を見直していけると良いです。このプロセスを通して、職員一人一人が理解し、皆が保護者に解説・説明できる力をつけていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	34	1	直接関わってはいません。面談を行い意向確認をしている。親子教室のため支援計画の作成はありません。面談で思いを聞いている。	こどもの思いや保護者の意向を丁寧に受け止め、支援に反映していくことは引き続き大切にしていきたい課題です。ことばで思いを伝えることが難しいこどもや、本音を表現しづらい保護者もいることを踏まえ、職員一人ひとりがこどもの声の受け取り方や保護者との対話の在り方について学びを深めていきます。また、支援計画の書式の見直しや説明方法の工夫を行い、より分かりやすく意向を確認できる取り組みを進めていきます。

保 護 者 へ の 説 明 等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	34	1	直接関わってはいません。親子教室では行っていないが毎日通園等は行っている。親子教室のためありませんが、お子さんの様子と今後の園遊びが円滑にできるよう様子などを話し情報の共有に努めています。自宅ですっかり読んでも確認できるようにしている。納得がいかなければ作成し直し、その後、署名をいただく、わかりません。	児童発達支援管理責任者が主に行っています。支援内容について説明し同意を得ていますが、一人一人により分かりやすく育ちや今後の方向性を説明できるよう心がけていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	35	0	お話を聞き、今後の支援を検討して保護者に返していくサイクルができています。直接関わってはいません。必要に応じて面談の提案や話す時間を設けている。面談を必要に応じて行っている。必ず、年に一回は行なっている。送迎や面談、日々の様子を電話で伝えている。面談日での相談のほか、毎日の振り返りでの回答などで行っています。連絡帳を設けている。毎月面談を行う方もいる。保護者の様子を読み取り、こちらから声をかけ面談を行う場合もある。保護者の気持ち聞き、一緒に伴走することを意識している。わかりません。面談日を設けて、保護者からの話を聞いている。定期的な面談や必要に応じて電話連絡ができています。	学園では、日頃から保護者の声に耳を傾ける機会を大切にし、面談や電話での相談等にも丁寧に対応しています。相談を受ける際には、お話を伺うだけでなく、今後の見通しと一緒に取り組んでいけることについてもお伝えできるよう心がけています。また、必要に応じて職員間で共有し、チームとして対応を検討する視点も大切にしています。今後も保護者の声を受け止めながら、迅速に具体的な支援につなげられるよう知識や技術を深めるとともに、ソーシャルワークの視点や社会資源に関する情報についても学びを深め、保護者に分かりやすく伝えられるよう取り組んでいきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	34	1	ファミリーデーや仲良し会などで、家族間や兄弟児の支援もしている。直接関わってはいません。ネーミングや内容を変更し、参加し易いようにしている。毎日通園やらいおんグループでは行っている。お話会の中で保護者同士の横のつながりができるよう取り組んでいる。ファミリーデーや運動会で兄弟児も楽しめる内容を取り入れている。母子分離で保護者同士の交流会を行っています。ファミリーデーでは、兄弟児活動を取り入れ、兄弟児同士で協力する場を設けた。兄弟同士で関わる機会が無いと感ずる。わくわくサロン、父親参観、ファミリーデーなど行事を実施している。わかりません。行事やスキップでできていると思う。	きょうだい児への支援については、学園として引き続き取り組んでいきたい課題の一つです。今年度はファミリーデーの中で兄弟児も参加できる活動を設けるなど、きょうだいも学園の中で仲間と触れ合ったり、安心して自分らしく過ごせる機会づくりを行いました。また、きょうだいに関する悩みや相談についても、面談などの機会を通して対応しています。行事での取り組みに加え、きょうだい児や家族全体を支える継続的な支援のあり方について、今後も検討しながら取り組んでいきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	36	0	何かあった時はすぐに担任に伝えるようにしている。聞いた職員は、グループ内で共有し対応をみんなで話し合い保護者に伝えるようにしている。面談での相談のほか、ラインでの連絡相談もしています。分からない。管理職員に報告し、適切な対応をとっている。	相談や申し入れに対しては、迅速な対応や分かりやすい説明を心がけ、不安や悩み、分からない点について正確な情報を伝えられるよう努めています。また、必要に応じて職員間で共有し、チームで対応を検討しながら支援を行っています。今後も総合的な知識や技術を高めながら、本人や家族に寄り添い、本人が自分の力を発揮しながら前に進んでいけるような支援を目指して取り組んでいきます。また、どの職員も同じ意識で対応できるよう、学園全体で共通理解を深めていくことも今後の課題として取り組んでいきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	31	4	snsをより活用していけると良い。直接関わってはいません。あまりSNSは活用できていない。学園日より、クラスだよりを発行している。数年前からラインの導入で迅速に情報の発信ができるようになりました。写真を入れより理解を得やすいようにしている。分からない。紙面での便り+コードモンでのお知らせをしている。学園だよりで毎月の行事や情報を提供できているとおもう。SNSは活用できていないため、もう少し活用できると良い。コードモンも使えるといいと思う。	保護者にとって分かりやすく、必要な情報を適切な時期に伝えられるよう、おたよりや連絡アプリなどを活用しながら、伝わりやすい方法について検討を重ねていきます。また、社会の変化や保護者の生活スタイルも踏まえ、保護者向けの情報や地域に向けた発信など、情報の内容に応じて発信の場や方法を選びながら、より伝わりやすい情報発信のあり方についてSNSの活用も検討していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	36	0	職員全体が同じ認識を待ち対応できるよう、引き続き努めていきたい。外に情報が漏れないよう、名前のあるものは持ち出さない。ファイルや机の上を整理する等行なっている。時々コピー機に書類が挟まっていたり、作業中のまま職員が離れて見える状態になっているため、全職員で意識する必要があると思う。学園外に持ち出さない。持ち出さない、話さないの徹底。個人情報がかかっているプリントは、個人情報保護ファイルに入れて回収に回している。今年度はヒューマンエラーによる事故が多い。個人情報に対する職員の認識を高められるような研修内容を取り入れて行きたい。分からない。職員会議で個人情報について意識する機会が設けられている。	学園では個人情報の保護について職員が共通の認識をもって対応できるよう、定期的な研修や注意喚起を行い、個人情報の取り扱いに対する意識の向上に努めています。また、ヒューマンエラーの防止に向けて複数の目で確認する仕組みづくりや、個人情報の持ち出しについても危機意識を共有するなど、組織として再発防止に取り組んでいます。今後も職員一人ひとりが利用者の尊厳を守る上で責任ある行動をとれるよう、継続して意識づけと環境づくりを進めていきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	35	1	それぞれに合った伝え方を考える。視覚情報や必要に応じてその場で一緒に電話をかけるなどしている。連絡内容を電話で再確認。分からない。記録に残る伝え方をしている。	こどもや保護者との意思疎通については、それぞれの状況に応じた伝え方を工夫しながら取り組んでいます。視覚的な手がかりや記録に残る方法なども活用していますが、個々に応じた伝え方については今後も工夫を重ねていく必要があります。引き続き、こどもや保護者にとって分かりやすい情報の伝え方を学園全体で共有しながら取り組んでいきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	33	2	直接関わってはいません。コロナにより、薄れていたが少しずつ増えてきているように思う。年に一回、町内の方を招いたり民生委員の方などが見学に来られたりする。親子教室のため機会はあまりありませんが、高台幼稚園での親子教室では地域の方が利用される園なので張り紙をしてお知らせしています。1日園長をお願いしたり行事に招待したりしている。1日園長先生や、みかん祭り。数は少ないが、もちつき等、行っている。	地域との関わりについては、行事への参加や見学の受け入れなどを通して取り組んでいますが、機会はまだまだ多いとは言えない状況です。今後も学園から地域に向き合いを作りにいく等、地域に自分達も出ていくことを意識しながら、学園の取り組みを知っていただく機会を少しずつ広げていきます。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	35	1	直接関わってはいません。消防隊や救急隊といったプロに来ていただくことで、よりリアルな訓練だった。親子教室の活動時は参加ができていない。職員会議で行っている。親子教室としての訓練はできていないので、もしもの時にどう動くのか相談していきたいです。研修の機会を設け、全員で理解し、意識している。	毎月、避難訓練や消火訓練を実施するとともに、職員会議等を活用して感染症対応などの研修を行っています。また、消防職員に來園していただいた訓練や、実際の場面を想定したシミュレーションを取り入れることで、より実践的な学びにつなげています。全職員が共通理解をもって対応できるよう、今後も研修や確認の機会を重ねながら周知と理解を深めていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	35	2	指示通りに動けるよう、心積もりをしています。想定の内容が毎回違い、都度そういった時にはどういった動きが必要か確認できて良い。毎度「放送が聞こえにくい」と振り返りに出るため改善されると良い。親子教室活動時に参加できていない。毎月避難訓練や防災訓練を行っている。親子教室としての訓練はできていないので相談したいです。法に基づいて訓練を行っている。わかりません。	BCP（業務継続計画）は策定を進めましたが、様々な災害状況を想定した内容の充実や体制の見直しが今後の課題です。現在実施している訓練を基盤としながら、想定幅を広げた検討を行い、より実効性のある計画となるよう継続して見直しと改善に取り組んでいます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	35	1	その都度確認しています。職員会議録等を目を通す。親子教室のため保護者がおり確認していません。発作が起きた時の対応など確認している。バス内のマニュアルはあるが、個々の対応が多く職員が把握しきれていないため、ある程度の固定化が必要と考える。入園前に保護者から聞き取り、職員全員に周知している。定期的に、研修としてみんなで確認する機会があることは良いと思います。事前に保護者から情報を得ている。入園前に必ず確認しマニュアルを作成している。	入園時の聞き取りや日常のやり取りを通して、服薬や発作などこどもの健康に関する情報を把握しています。看護師とケース担当が連携しマニュアル等の整備にも努めています。今後も職員間での情報共有を丁寧に、必要な情報が確実に共有される体制づくりに取り組んでいます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	36	1	アレルギー対応食の備蓄を検討すること。個々のアレルギーへの対応を考え、実践しています。食事を与える際に皆でアレルギーの確認をしている。毎回、メニューに沿って保護者に確認しています。全部屋に掲示してある。わかりません。	食物アレルギーについては、医師の指示書をもとに除去食等の対応を行っています。アレルギー表を対象児の部屋や厨房、職員室に掲示すると共に、誤食防止のための確認体制を継続していきます。職員間での情報共有を徹底し、安全に配慮した対応を行っていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	35	2	いざという時に動けるよう準備をしておく。保護者、職員に周知され、計画どおり行っている。わかりません。	安全計画をもとに、研修や訓練を通して安全管理の意識を高めています。今後も計画内容の周知と理解を深めながら、安全に配慮した支援が行えるよう取り組んでいます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	33	1	直接関わってはいません。緊急時の連絡先は何箇所か何える方は聞いている。わかりません。	安全計画に基づく取り組みについては、新年度ガイダンス等を活用し保護者にも周知しています。災害時の対応については、保護者の不安や心配の声にも耳を傾けながら、必要な情報を分かりやすく伝えていくことを大切にしています。また、訓練や日々の支援の中で職員が感じた課題や気づきについても共有しながら、より安心につながる体制づくりに取り組んでいます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	35	1	日々の終礼にて確認し、対応も検討している。そうなってしまった原因を考え対応策を考える。終礼で毎回共有している。振り返りの中で子どもの行動やその時の状況などを全体周知し同じことが起きないように皆で声掛け等しながら支援している。終礼で報告がある。ヒヤリハットとしてあげて共々理解を再度することも必要。ヒヤリハットの数が少ないため、もっと気付けるように意識し、事故防止に努めたい。わかりません。	ヒヤリハットについては、職員の安全に対する意識が高く、日々の振り返りの中でも多くの気づきが共有されています。挙がった内容については終礼等で職員全体に周知し、対応方法や再発防止について確認しています。今後も小さな気づきを大切にしながら、安全管理につなげていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	34	2	直接関わってはいません。昨年度はG会議などで「こういった時はどんな声掛けや対応が良いか」話す機会があった。定期的にそういった話しができる。経験が深い職員や資格を持たない職員のレベルアップにつながるし、悩みを一人で抱えることが少なくなると思う。毎月のアンケートにて意識化されている。できていない。マニュアルはいただいている。虐待防止委員会を設置したり、職員会議で虐待について考える機会を設けている。毎月のセルフチェックと委員会の定期開催にて職員の状況の共有。わかりません。	虐待防止については最重要事項として位置づけ、研修や自己の振り返りを通して継続的に取り組んでいます。不適切な関わりや職員の価値観、無意識の行動についても振り返りながら、職員一人ひとりの意識向上を、今後より重点を置き取り組みたいです。また、風通しのよい職場づくりが虐待防止につながるという考えのもと、終礼では「ニコリホッ」などの共有も行い、良い関わりや気づきを職員間で共有しながら取り組みを進めています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	31	3	直接関わってはいません。保護者も同伴での参加である為、基本何が行動を起こす時には意見を伝え思いを確認するようにしている。支援計画の作成はないですが保護者が一緒のためもしもの時は観望さんに確認しています。分からない。	身体拘束については原則行わないことを基本とし、こどもの権利や尊厳を大切にした支援を行っています。やむを得ず身体拘束が必要となる場合には、組織として判断し、保護者への十分な説明と理解を得たうえで支援計画に位置づけるなど、適切な手続きを踏んで対応していくことを職員間で共有していきます。今後も職員一人ひとりが身体拘束に対する理解を深め、こどもの権利を尊重した支援が行えるよう取り組んでいます。